TRB(T 細胞受容体 β 鎖）遺伝子再構成《PCR 法》	P000023
	担当部署
TRB	病理

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		該当なし
オーダリング手順	1	サイボウズ→ファイル管理→54．病理診断科→遺伝子解析依頼申請書→
	2	
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		該当なし
検査受付時間		8：15～16：00

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	手術、及び内視鏡、穿刺等の侵襲的検体採取では様々な準備が必要となるため、各々の担当医師、担当看護師等の指示に従う。
検体採取の特別なタイミング	疾患診断時

検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	組織　8mm 角	容器番号 27 滅菌スピッツ管	無	500	mg
2	未染スライドガラス	容器番号 30 遺伝子検査用標本スライド容器	無	5	枚
3					
4					
5					
6					
7					
8					

検体搬送条件	室温
検体受入不可基準	オーダーがない
保管検体の保存期間	パラフィンブロック：半永久 ＊保管検体から再検査をオーダーする場合は要連絡

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　病理診断科				
測定時間	8～11 日				
生物学的基準範囲	再構成を認めない				
臨床判断値	該当なし				
基準値				単位	該当なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
パニック値	高値	該当なし			
	低値	該当なし			
生理的変動要因	該当なし				
臨床的意義	T 細胞においても B 細胞と同様に分化過程において TCR 遺伝子の再構成が見られる。TCR 遺伝子は現在 α,β,γ,δ の 4 鎖が知られているが,TCRβ 鎖遺伝子も免疫グロブリン遺伝子と同様に V,D,J の各領域遺伝子から成り,D-J 連結ついで V-DJ 連結の順に再構成が生じる。Γ 鎖遺伝子可変部は,V,J 領域遺伝子から成っていて,これらの遺伝子は T 細胞の分化,特に胸腺内での分化の過程で遺伝子再構成を行い,γ 鎖と δ 鎖遺伝子は α 鎖と β 鎖遺伝子に先立ち再構成され,それぞれ複合体を形成し T 細胞レセプターとして発現される。 TCRβ 鎖遺伝子は第 7 染色体長腕(7q32 または 7q35)に,TCRα 鎖遺伝子は第 14 染色体長腕(14q11.2)に,TCRγ 鎖遺伝子は第 7 染色体短腕(7q15)に,TCRδ 鎖遺伝子は第 14 染色体長腕(14q11.2)に座位し,TCR 遺伝子も免疫グロブリンと同様に TCRδ 鎖→TCRγ 鎖→TCRβ 鎖→TCRα 鎖のハイアラキーが存在すると考えられるため,TCR 遺伝子の再構成パターンを調べることにより,T 細胞の分化過程の一部を知ることができる。またリンパ球表面マーカーなどの表現型による分類が困難な場合に有用な検査である。				